

実践事例

(郷土) 矢作北小学校 5年

学ぼう米作り！感じよう地域とのつながり！

～稲作学習を通して～

5月～2月（35時間）

1 ねらい

地域の農家の方に米作りを教してもらいながら学習を進めることで、米作りの大変さ、農家の工夫や技術を知る。また、手作業の米作りを地域の方から学ぶことで、先人の苦労や米作りが受け継がれていることに気付かせる。そして、米作りを教えてください支えてくださったりした地域の方に感謝する気持ちを持ち、これまで受け継がれてきた米作りを大切にしようという気持ちをもたせる。

2 実践の概要

(1) 活動計画

学習課題	内容
米作り・農家の仕事について知ろう 実践1	地域にある農家の方を伺い、米作りを行う設備を見学したり農家の仕事について聞いたりする。
田おこしに挑戦しよう 実践2	鍬を使って田を起こす体験を通して、昔の農家の大変さを実感する。
泥んこ遊びで代かきをしよう 実践3 農家の方の代かきの様子を見学しよう	学年田んぼレクリエーション「田んぼリンピック」を行うことで、代かきを体験する。 農家で行う代かき（トラクター）を見学することで、どのように田んぼを平らにしているかを知る。
田植えに挑戦しよう 実践4	地域の方に教えていただきながら、稲の苗を一束ずつ植える活動を行う。
稲の生長を観察しよう（随時）	稲を観察し、稲の生長の様子を学ぶ。
稲刈りに挑戦しよう 実践5	地域の方に教えていただきながら、稲を刈り、運び、束ねる。
脱こくに挑戦しよう	地域の方の協力を得ながら脱穀を行う。
感謝の会を開こう 実践6	米作りのお手伝いをしてくださった方へ感謝の気持ちを伝える。
お正月飾りを作ろう	藁を束ねて縄にし、縄をなって正月飾りを作る。
来年の5年生に学びを伝えよう	学習の成果をまとめ、4年生に伝える。

(2) 実践の実際

【実践1 米作り・農家の仕事について知ろう】

郷土学習の時間に、農家の方が作業している様子を観察したり、質問したりする時間を設けた。稲のもみの生育の観察、トラクターの乗車、白米・玄米・もみの違いを触れて体験するなど、子供たちは、様々な経験をすることができた。子供たちは「トラクターって乗ると高い」「もみの生長は、思っていたより早いんだ」と、初めて知ったことに興味をもち、米作りへの意欲が高まっていった。



【実践2 田おこしに挑戦しよう】

子供たちは、田んぼに初めて足を踏み入れた。事前に地域の方に田起こしをしていただいた後なので、軟らかくはなっている。子供たちは、足を踏み入れるごとに、「土が軟らかい」「歩きにくい」と声を上げた。班ごとに分かれて、交代しながら鍬で起こしてみると「土が重い」「疲れる」と、大変さが身にしみている



ようだった。体験後の感想には、「今は機械で耕すことができるけれど、昔は鍬で耕していたなんてすごい」「みんなで田起こしをしてもこんなに大変なのに、それを昔は一人でやっていたんだと思うと、昔の人は苦勞したんだと思った」などがあ、昔の農家の大変さを実感することができた。

【実践3 泥んこ遊びで代かきをしよう】

田んぼに水を入れ、泥んこ状態にした後に、学年田んぼレクリエーション『田んぼリンピック』を行った。種目は、仲間とボール運びゲーム、ボールリレー、そりりレーの3種目を行った。本来の代かきのように土の表面を平らにすることはできないが、子供たちが動くことで、土を細かくすることができた。子供たちは、「田んぼに入ることが不安だったけど、全身泥んこになって、気持ちよかった」との感想をもった。



【実践4 田植えに挑戦しよう】

地域の方に指導と手伝いを頼み、田植えを行った。真っ直ぐの列で植えるためにロープに印を付け、それに沿って植えた。子供たちは、「なかなか進まなくて大変だった」「土に足をとられて疲れた」と感じ、農家の方の大変さを体験できた。



【実践5 稲刈りに挑戦しよう】

3人グループを作り、刈る・運ぶ・束ねる、という役割分担をし、効率よく稲刈りを行った。地域の方の指導の下、安全に楽しく取り組むことができた。子供たちは、「刈り始めは、なかなか刈ることができなかつたけれど、地域の方に鎌の使い方を教えてもらったら、簡単に刈ることができた」「地域の方から、昔の子供は、稲刈りの手伝いをしていたと聞いて、昔の子供は大変だったんだ」という感想をもった。地域の方との交流を通して、感謝する気持ちを育てることができた。そして、稲刈りが受け継がれているものだということを地域の方の話から実感することができた。



【実践6 感謝の会を開こう】

米作りのお手伝いや指導をしてくださった地域の方に、感謝の気持ちを伝える会を催した。児童代表が、米作りの大変さ、苦勞、感謝の気持ちを地域の方々に伝えた。その後、収穫した米で作ったおもちを、地域の方々や他学年の子供たちに振舞った。子供たちの感想には「地域の方へお礼の気持ちを伝えることができて良かった」「自分たちが苦勞した分、おもちがおいしく感じた」とあった。米作りを通して、地域の方への感謝の気持ちをもち、矢作北学区の米作りを守りたいという気持ちをもつことができた。



3 実践を振り返って

子供たちは、米作りの学習を通して、米作りの大変さ、農家の方の苦勞を感じる事ができた。また、米作りの学習がこれまで受け継がれていることを知り、自分たちも下学年に伝えたいと考えるようになった。そんな子供たちの気持ちを大切に、今後、自分たちの学習の成果を4年生に伝えさせたい。